

平成24年度 佐賀大学文化教育学部・佐賀県教育委員会
連携・協力事業の実施状況について 平成24年7月12日

教員研修専門部会

【プロジェクト名】 発達障害と心身症への支援に強い教員の養成

1 プロジェクトの目的・概要

平成18年6月に連携協力事業の1つとして「教員養成アンケート」を実施した。その結果、佐賀県では、発達障害（学習障害<LD>、注意欠陥・多動性障害<ADHD>、高機能自閉症等）や心身症・不登校の児童生徒への対応や指導が学校の教育課題となっていることが明らかとなった。文化教育学部は、医学部附属病院との連携のもと、発達障害や心身症・不登校の児童生徒への支援力養成のための新しい教育実習、臨床教育実習をコアとするカリキュラムを開発することによって、これらの状態についての医学・心理・教育の高度の知識に加え、高い対応力と指導力をもった小中学校や特別支援学校の教員の養成を目指すこととなった。

この取組は、文部科学省「平成19・20年度専門職大学院等教育推進プログラム」に採択された（取組名称「発達障害と心身症への支援に強い教員の養成～文化教育学部・医学部附属病院連携による臨床教育実習導入とカリキュラム開発～」）。2年間の取組を踏まえ、平成21年度に教育学研究科カリキュラムに新しく「教育実践フィールド研究（臨床教育実習）」、文化教育学部カリキュラムに「臨床教育実習Ⅰ」「同Ⅱ」および「臨床教育演習」が設けられた。

平成22年度から24年度は、文部科学省特別経費（プロジェクト分）支援事業として「発達障害・不登校及び子育て支援に関する医学・教育学クロスカリキュラムの開発」を進めている。関係科目や市民向けの子育て講座を開いている。これらの取組により、「困り感」のある多くの子どもたちをサポートすることができ、そして保護者の力となれる教師、医師等の専門職を数多く養成したいと考えている。

2 23年度の実施実績

(1) 平成22年度臨床教育実習（学校実習）の実施（第4期生）

臨床教育実習は、後学期と次年度前期の年度をまたがる実習である。右の図参照

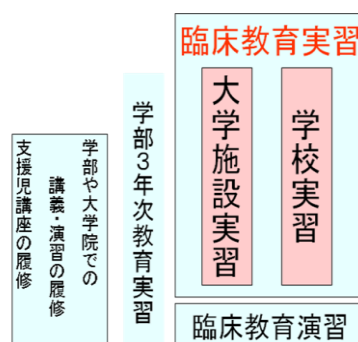
①□支援児在籍校等でのサポート活動

平成22年度実習生25名（第4期生）の内、現職大学院生、卒業・修了生を除いた履修可能な学生9名が原則、平成23年5月から7月まで支援児の教育的ニーズに合わせて、個別指導を継続したり、授業や学校生活の中で支援児をサポートした。

②臨床教育演習

支援児在籍校でのサポート活動や指導の振り返りと指導計画の検討を中心に、臨床教育演習を実施した。

③平成22年度臨床教育実習（学校実習）報告会 第2回連携・外部評価委員会の開催



学部生	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
大学院生	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期

8月下旬、佐賀県教育委員会、佐賀県教育センター、佐賀市教育委員会、大川市教育委員会、支援児在籍校等の出席を得て、学校実習報告会と連携・外部評価委員会を実施した。これにより22年度実習（第4期生）は終了した。

(2) 平成23年度臨床教育実習（大学施設実習）の実施（第5期生）

①実習生と支援児について

ア. 臨床教育実習 参加学生 27名

院生2名（ストレートマスター1年生1名、現職教員院生1名）

学部学生25名（3年生24名、4年生1名）

選修・コース	文化教育学部学校教育課程				教育学研究科学校教育専攻		
	教育学選修	教育心理学選修	障害児教育選修	教科教育選修	教育学コース	教育心理学コース	障害児教育コース
1年	-	-	-	-	1	0	1 (1)
2年	-	-	-	-	0	0	0
3年	5	4	8	7	-	-	-
4年	0	1	-	-	-	-	-
小計	5	5	8	7	1	0	1 (1)
男：女	0：5	2：3	0：8	0：7	0：1		0：1
合計	学部学生25名、大学院生2名、合計：27名(1名). 男子：女子=2：25 ※()は現職教員の大学院生数、内教						

イ. 支援児と担当チーム

小学生5名

A児 (Aチーム)	小1 男子
B児 (Bチーム)	小5 男子
C児 (Cチーム)	小2 男子
D児 (Dチーム)	小1 男子
E児 (Eチーム)	小1 男子

②取組の経緯（平成23年4月～24年3月）

(ア) 学部や大学院の関連科目での教育の他、支援児講座を開き、学生に専門的な知識やスキルについて指導した。

(イ) 7月上旬に平成23年度臨床教育実習合宿を行った。

(ウ) 7月下旬 平成23年度臨床教育実習計画会議を開催した。佐賀県教育委員会よりご講話をいただいた。

(エ) 8月下旬、平成22年度臨床教育実習（学校実習）の終了を受けて、報告会と連携・外部評価委員会を開催した。

(オ) 10月8日に附属特別支援学校で、「スマイルルーム開式」を行った。平成23年度臨床教育実習（大学施設実習）を開始した。1月下旬までの期間に、12回指導した。また、毎週1回、支援チーム毎にチーム担当教員の指導のもと、指導の振り返りと次回指導構想

- の検討を中心に臨床教育演習を開いた。支援チーム合同カンファレンスを3回行った。
- (カ) 在籍校や保護者とのコミュニケーションを密にするため、「スマイルルーム通信」を発行し、保護者や支援児在籍校に配布した。
- (キ) 「前向き子育てプログラム（トリプル P）基本プログラム」を3回、発達障害のある子どもの保護者対象の「前向き子育てプログラム（トリプル P）ステップングストーンズプログラム」を2回、子育てセミナーを2回開催した。
- (ク) 教育学研究科の学生が、佐賀県立太良高等学校で教育実習を履修した。来年度の実習に向け、同校で3名の学生が教育実習準備活動を行った。
- (ケ) 特別支援教育士資格認定協会主催「特別支援教育公開研修会（佐賀）～発達障害のある子どもの学びを支える～」を開催した。上野一彦氏（日本 LD 学会理事長）講演と佐賀県の小・中・高校の通級指導教室・教育相談担当によるシンポジウムを行った。
- (コ) 2月に平成23年度臨床教育実習（大学施設実習）報告会と連携・外部評価会議を開催した。
- (サ) 3月に文部科学省特別経費（プロジェクト分）支援事業「発達障害・不登校及び子育て支援に関する医学・教育学クロスカリキュラムの開発」（平成22年度～24年度）の外部評価委員会を開催した。佐賀県教育委員会、佐賀県健康福祉本部、佐賀県医師会、佐賀県社会福祉協議会に外部評価委員の派遣を依頼した。
- (シ) 3月下旬、臨床教育実習報告の他、「子どもの発達と支援プログラム」（全学部生対象）の概要と学修状況の分析、前向き子育てプログラム（トリプル P）の実践報告と考察、太良高校での教育実習報告、関係論文等を載せた『子どもの発達と支援研究 第3号』を発行した。
- (ス) 3月下旬、主に「子どもの発達と支援プログラム」のテキストとして、池田行伸・藤田一郎・園田貴章編著『子どもの発達と支援－医療、心理、教育、福祉の観点から－』（ナカニシヤ出版）を出版した。



【平成23年度 取組み】

月	日	曜日	項目
4	8	金	「子どもの支援（発達障害・心身症と小児医療）」開講
			「子どもの支援（児童福祉施設の目的と役割）」開講
5	10	火	平成23年度臨床教育実習 説明会
	23～7/11		平成23年度 第1回「前向き子育てプログラム（トリプルP）ステップングストーンズプログラム」開講
	28～7/9		平成23年度 第1回「前向き子育てプログラム（トリプルP）基本プログラム」開講
6			臨床教育実習生対象の支援児講座の開講。DVD講座録画の視聴受講
7	9～10	土・日	平成23年度臨床教育実習 合宿

	25	月	平成23年度臨床教育実習 計画会議 佐賀県教育委員会講話「佐賀県における特別支援教育の現状と課題」
8	25	木	平成22年度臨床教育実習(学校実習)報告会, 連携・外部評価会議
	31～9/2		佐賀県立太良高等学校において教育実習準備活動
9			小学校教育実習(附属小学校, 佐賀市立本庄小学校)
	9	金	第60回九州地区大学一般教育研究協議会(佐賀大学)にて本事業報告
	11	日	平成23年度 第1回「トリプルP 前向き子育てセミナー」開催
	13～15		佐賀県立太良高等学校において教育実習準備活動
	17～19		第20回日本LD学会発表 ・「液晶ペンタブレットを用いた漢字学習支援システムの開発(2)」 ・「DN-CASを生かした筆算, コミュニケーションの支援～臨床教育実習での取り組み～」
10	3	月	「子どもの支援(発達障害と不登校への心理・教育支援)」開講 「子どもの支援(家族支援と子育てスキル)」開講
	8	土	平成23年度臨床教育実習(大学施設実習)の教室開き (通称 スマイルルーム実習)
	10	月	『IT(情報技術)があれば学習出来る子どもたち～佐賀からスタートする新しい支援教育～』(主催: 東京大学先端科学技術研究センター・佐賀県教育委員会)にて, ICT活用の漢字学習支援システム開発の発表
	15	土	臨床教育実習 第1回指導
	16	日	特別支援教育士資格認定協会主催「2011年度 特別支援教育公開研修会(佐賀)～発達障害のある子どもの学びを支える～」開催
	17～2週間		佐賀県立太良高等学校で教育実習
	22	土	臨床教育実習 第2回指導
	22～12/17		平成23年度 第2回「前向き子育て(トリプルP) 基本プログラム」開講
	29	土	臨床教育実習 第3回指導
	11	4	金
12		土	臨床教育実習 第4回指導
19		土	臨床教育実習 第5回指導
26		土	臨床教育実習 第6回指導
12	2	金	「日本子ども虐待防止学会」の分科会「地域におけるトリプルP(前向き子育てプログラム)の展開」にて取り組み報告
	3	土	臨床教育実習 第7回指導
	8	木	第2回支援チーム合同カンファレンス
	10	日	平成23年度 第2回「トリプルP 前向き子育てセミナー」開催
	17	土	臨床教育実習 第8回指導
1	7	土	臨床教育実習 第9回指導
	14	土	臨床教育実習 第10回指導
	14～2/25		平成23年度 第3回「前向き子育て(トリプルP) 基本プログラム」開講

	17～3/6		平成23年度 第2回「前向き子育てプログラム(トリプルP)ステップストーンズプログラム」開講
	21	土	臨床教育実習 第11回指導 修了式
	27	金	第3回支援チーム合同カンファレンス
2	20～24		障害児教育基礎実習 (障害児教育選修 学生)
	22	水	臨床教育実習(大学施設実習)報告会 連携・外部評価会議
3	6	火	文部科学省特別経費(プロジェクト分)支援事業「発達障害・不登校及び子育て支援に関する医学・教育学クロスカリキュラムの開発」(H22年度～H24年度)外部評価委員会
	下旬		『子どもの発達と支援研究 第3号』(本誌) 発行
			主に「子どもの発達と支援プログラム」のテキストとして、池田行伸・藤田一郎・園田貴章編著『子どもの発達と支援－医療、心理、教育、福祉の観点から－』(ナカニシヤ出版)を出版する予定である。

3 平成24年度の実施計画

(1) 平成23年度臨床教育実習 (学校実習) の実施 (第5期生)

平成23年度臨床教育実習への参加学生 (第5期生) が、5～7月、学校実習として、支援児在籍校5校でサポート活動を行っている。

(2) 平成24年度臨床教育実習 実習生 (第6期生) と支援児について

①実習参加学生 20名

院生3名 (ストレートマスター1年生1名, 現職教員院生2名)

学部学生17名 (3年生16名, 4年生1名)

選修・コース	文化教育学部学校教育課程				国際文化課程	教育学研究科学校教育専攻		
	教育学選修	教育心理学選修	障害児教育選修	教科教育選修		教育学コース	教育心理学コース	障害児教育コース
1年	-	-	-	-	-	0	1(1)	2(1)
2年	-	-	-	-	-	0	0	0
3年	3	2	7	3	1	-	-	-
4年	1	0	0	0	0	-	-	-
人数	4	2	7	3	1	0	1(1)	2(1)
男:女	2:2	1:1	0:7	0:3	0:1	0	0:1	0:2
学部学生17名, 大学院生3名, 合計:20名(2名) 男子:女子=3:17 ()は現職院生, 内数								

②支援児と担当チーム

小学生3名 中学生1名

A児 (Aチーム)	小4 女子
B児 (Bチーム)	中1 男子
C児 (Cチーム)	小1 男子
D児 (Dチーム)	小3 男子

(3) 本年度の計画（平成24年4月～25年3月）

- (ア) 学部や大学院の関連科目での教育の他、支援児講座を開き、学生に専門的な知識やスキルについて指導する。
- (イ) 学生がパソコンを使っていつでも支援児講座を視聴できるよう、DVDに記録している。
- (ウ) 「前向き子育て講座（トリプルP）」を、合計5回程度実施の予定
- (エ) 7月中旬に臨床教育実習合宿を行う。
- (オ) 7月下旬に平成24年度臨床教育実習計画会議を開く。
- (カ) 8月下旬、平成23年度臨床教育実習（学校実習）の終了を受けて、報告会と連携・外部評価委員会を開催する。
- (キ) 10月13日に附属特別支援学校で、「スマイルルーム開式」を行う。平成24年度臨床教育実習（大学施設実習）を開始する。1月下旬までの期間に、12回指導する。また、毎週月曜日2校目に支援チーム毎にチーム担当教員の指導のもと、指導の振り返りと次回指導構想を中心に臨床教育演習を開く。
- (ク) 臨床教育実習（大学施設実習）の期間中3回、支援チーム合同カンファレンスを開催する。
- (ケ) 在籍校や保護者とのコミュニケーションを密にするため、本年度も「スマイルルーム通信」を発行し、保護者や支援児在籍校に配布する。
- (コ) 2月下旬、平成24年度臨床教育実習（大学施設実習）報告会と連携・外部評価委員会を開催する。
- (サ) 3月下旬、『子どもの発達と支援研究』第4号を発行する。
- (シ) 講演会等の実施を計画している。

【平成24年度の計画】

月	日	曜	項目
4	6	金	前学期開講 「子どもの発達と支援プログラム」 関係科目の開講
	23	月	平成24年度臨床教育実習説明会
5			前向き子育て講座（トリプルP）の開始、毎週土曜日、合計8セッション。年間を通して、合計5回程度実施予定。
7	21	土	臨床教育実習オリエンテーション
	26	木	平成24年度 臨床教育実習計画会議
8	31	金	平成23年度学校実習報告会 その後 連携・外部評価委員会
9			3年次教育実習（附属小学校、本庄小学校）
10	13	土	スマイルルーム開式 ※“スマイルルーム”とは臨床教育実習（大学施設実習）のこと
	20	土	SR (1) ※SR:スマイルルーム
	27	土	SR (2)
11	2	金	第1回支援チーム合同カンファレンス
	10	土	SR (3)
	17	土	SR (4)
	24	土	SR遠足
12	1	土	SR (5)

	8	土	SR (6)
	15	土	SR (7)
	22	土	SR (8)
1	8	火	第2回支援チーム合同カンファレンス
	12	土	SR (9)
	19	土	SR (10)
	26	土	SR (11) SR修了式
2	1	金	第3回支援チーム合同カンファレンス
	26	火	平成24年度臨床教育実習（大学施設実習）報告会 連携・外部評価委員会
3	末		『子どもの発達と支援研究 第4号』の発行

4 関連事項

(1) 佐賀県立太良高等学校で、10月に教育実習を実施する。学生が6月より1年生体験学習の学生支援員（ソーシャルスキルモデラー）として活動している（毎週水、金）。同じく学生支援員として、7月30日（月）～8月3日（金）、2年生の職場実習支援を行う。

(2) 文部科学省特別経費プロジェクト事業の推進

平成19・20年度GP事業を踏まえ、その発展として、文部科学省特別経費（プロジェクト分）支援事業「発達障害・不登校及び子育て支援に関する医学・教育学クロスカリキュラムの開発」を進めている（平成22年度～24年度）。

【事業の主な目的】

①学年進行に合わせて関係科目を開講。平成24年度までに「医学・教育学クロスカリキュラム」の完成

大学のカリキュラム上の名称は「子どもの発達と支援プログラム」（次頁の表参照）

②心理検査法や教材・支援ツールの研究開発

工学系研究科知能情報システム学専攻と共同で、ICT活用の漢字学習支援システムを開発した。日本LD学会等で発表した。

③発達障害・不登校・子育て支援に関するセンター的役割を担う体制の整備による、検査・診断・相談・療育・教育の地域連携の拡充への貢献

藤田教授，山口講師，中島講師を中心に、「前向き子育てプログラム」（トリプルP）を保護者対象に実施している。

【「子どもの発達と支援プログラム」について】

○「特別の課程」としており，学生その他，現職，一般の方も受講可能（25名登録）

○コア科目4，選択科目2。1科目16回（24時間）。本庄と鍋島で受講可能（テレビ会議システムを使用，e-learningサポート）

科目名	授業形態	学期	時間数	担当教員
1. コア科目 (4科目 8単位)				
子どもの支援 (発達障害・心身症と小児医療)	講義	前	24	藤田一郎
子どもの支援 (発達障害と不登校への心理・教育支援)	講義	後	24	園田貴章, 松下一世, 網谷綾香, 中島範子
子どもの支援 (児童福祉施設の目的と役割)	講義	前	24	松山郁夫, 山口玲子
子どもの支援 (家族支援と子育てスキル)	講義	後	24	藤田一郎, 中島範子
2. 選択科目 (2科目 4単位)				
発達障害等事例研究	講義/演習	前	24	池田行伸 他
心の科学 (発達障害と神経心理学)	講義	後	24	池田行伸, 松尾宗明
心の科学 (心の個人差)	講義	後	24	池田行伸
心の発達 (心の発達過程)	講義	前	24	池田行伸
心身の病 (心身の障害)	講義	前	24	眞田英進
心身の病 (心の病と癒しのプロセス)	講義	後	24	網谷綾香
教育の実際 (学習障害と授業)	講義	前	24	園田貴章
子どもの病気 (子どもの病気と子育て)	講義	後	24	藤田一郎

○大学コンソーシアム佐賀構成大学生も受講可能

○受講要項と願書は、文化教育学部オリジナルHPよりダウンロードできる。

○本事業のHPは、「医学・教育学クロスカリキュラム」で検索できる。

○本プログラムの登録者数は、平成24年4月現在、423名。内訳は右の表の通りである。教員、医師、看護師、保健師等による子ども地域支援ネットワークの担い手を佐賀大学から数多く輩出するとこの事業の目的を果たしつつある。

文教	137	32%
経済	54	13%
医学	184	43%
理工	15	4%
農	8	2%
一般	25	6%
合計	423	100%

○主にプログラム受講生のため、平成24年3月にテキストを発行した。

人

佐賀大学「医学・教育学クロスカリキュラム」教科書発刊

2012年(平成24年)6月20日(水曜日) | いまドキッ 14

教育、医療、福祉など
佐賀大学の幅広い分野の
研究者10人で、子ども全
般について体系的に執筆
した学術書「子どもの発
達と支援」が刊行された。
教師や医師、看護師を自
指す学生や専門的な知識
を習得したい社会人の入
門書と位置付け、分かり
やすく解説している。

文化教育学部の池田行
伸教授(神経心理学)、
藤田一郎教授(小児科
学)、園田貴章教授(教
育方法学)が編集。9章
構成で、乳児期から青年
期までの心の発達や子ど
もの病気、児童福祉、教
育的支援などのテーマ別
になっている。
関心が高まっている発

「子どもの発達と支援」刊行

子どもの発達と支援
池田行伸 藤田一郎 園田貴章
Child Development and Support
子ども発達
子ども発達と支援

▽ナカニシヤ出版刊、A5判、208頁、定価本体2400円。

佐大の研究10人が解説
教育、医療、福祉を網羅

障害者については、医学、教育学など各分野から「子どもに関わる職業」に就く人はいま、専門分野だけだけでなく近接する児童教育の変遷も説明し、領域も含めて習得する必要がある。この学術書は同大学の「医学・教育学」の教科書として企画した。

(山本礼史)